

村の道

利用可能な土地が限られているため、島では住居を隣の家屋と非常に近く建てる文化が発達しました。住宅は通常二階か三階建てで、道は非常に狭く、物資を出し入れするには手押し車を使うしかありません。島では小さな通りが迷路になっているのは普通のことです。地元の人々は、村の中心にある行き止まりのことを、渦巻き状になっているサザエの底という意味の「さんでのそこ」と呼んでいます。